

女性の政治参画への障壁等に関する調査研究報告書（概要）

令和3年3月
内閣府男女共同参画局

【調査の概要】

1. 立候補を検討したが断念した者に対するアンケート調査

国政選挙や地方議会選挙、首長選挙に立候補しようと考え、具体的な行動（身近な人に話す、政治家に話を聞く等）を起こしたが、断念した者を対象としてインターネットモニター調査を実施（調査期間：令和2年12月24日～令和3年1月31日）。合計994人（男性500人、女性494人）から回答を得た。

2. 男女の地方議会議員に対するアンケート調査

地域、議会の種類等を考慮して抽出した1,144の地方議会の男女議員10,100人を対象として、紙媒体の調査票又はウェブによる調査を実施（調査期間：令和2年12月25日～令和3年1月31日）。合計5,513人（男性3,243人、女性2,164人）から回答を得た（回収率54.6%）。

1. 立候補を検討したが断念した者に対するアンケート調査結果

(1) 立候補を断念した理由

- ◆ 立候補を断念した理由の上位3項目は、男女共に、「立候補に係る資金の不足」、「仕事や家庭生活（家事、育児、介護等）のため、選挙運動とその準備にかかる時間がない」、「知名度がない」となった。
上位10項目についてみると、「自分の力量に自信が持てない」、「当選した場合、家庭生活との両立が難しい」で男女の差が大きくなっており、女性にとって大きな障壁となっていることが分かる。【表1-1】

【表1-1】立候補を断念した理由（「大いにあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計、女性の上位10項目）

順位	項目	女性	男性	順位	項目	女性	男性
1	立候補にかかる資金の不足	68.0%	63.6% (1位)	5	選挙運動とその準備の方法が分からない	49.6%	42.2% (9位)
2	仕事や家庭生活（家事・育児・介護等）のため、選挙運動とその準備にかかる時間がない	61.7%	62.4% (2位)	7	自分の力量に自信が持てない	48.0%	38.4% (11位)
3	知名度がない	60.9%	62.4% (2位)	8	当選した場合、家庭生活との両立が難しい	47.8%	38.8% (10位)
4	当選の見込みが低く感じられた	56.3%	56.6% (4位)	9	当選した場合、仕事をやめなければならない	47.2%	44.2% (7位)
5	家族の理解やサポートが得られない	49.6%	51.2% (5位)	10	政党や団体のポスティング支援、金銭的助成等の支援が得られない	45.3%	46.2% (6位)

※全17項目についてそれぞれの程度あてはまるかを選択。 ※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

(2) 議員・首長として活動する際の課題

- ◆ 当選後、議員・首長として活動する際に課題となりそうな事項について、女性の上位3項目は、「活動に係る資金の不足」、「専門性や経験の不足」、「人脈・ネットワークを使って課題を解決する力量の不足」となった。上位12項目についてみると、「政治は男性が行うものだという周囲の考え」等で男女の差が大きくなっており、女性にとって大きな障壁となっていることが分かる。【表1-2】

【表1-2】 議員・首長として活動する際に課題となる事項（「大いに課題である」及び「やや課題である」の合計、女性の上位12項目）

順位	項目	女性	男性	順位	項目	女性	男性
1	活動に係る資金の不足	67.6%	67.0% (1位)	7	政治は男性が行うものだという周囲の考え	49.8%	22.8% (12位)
2	専門性や経験の不足	63.2%	51.2% (3位)	8	地元で生活する上で、プライバシーが確保されない	48.8%	33.8% (11位)
3	人脈・ネットワークを使って課題を解決する力量の不足	58.5%	51.0% (4位)	9	他の仕事との両立（兼業）が難しい	47.0%	42.8% (8位)
4	生計の維持	56.9%	52.2% (2位)	10	他の議員等の理解やサポートが得られない	46.2%	40.4% (9位)
5	家庭生活(家事・育児・介護等)との両立が難しい	52.6%	36.4% (10位)	11	地元の理解やサポートが得られない	46.2%	43.0% (7位)
6	家族の理解やサポートが得られない	51.2%	49.2% (5位)	12	政党や後援会の理解・サポートが得られない	45.5%	44.8% (6位)

※全14項目についてそれぞれどの程度課題かを選択。 ※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

(3) ハラスメントの状況、ハラスメントをなくすために有効な取組

- ◆ 立候補を検討している時または立候補準備中に、有権者や支援者、議員等からハラスメントを受けたかという質問に対して、**全体の61.8%、男性の58.0%、女性の65.5%がいずれかのハラスメント行為**（注）を受けたと回答している。
- ◆ ハラスメントの内容について、女性の上位3項目は、「性別に基づく侮辱的な態度や発言」、「SNS、メール等による中傷、嫌がらせ」、「年齢、婚姻状況、出産や育児などプライベートな事柄についての批判や中傷」となった。【表1-3】
- ◆ ハラスメントをなくすために有効な取組として、女性では「選挙管理事務局、政党、議会事務局等での相談窓口の設置」が最も多い。【表1-4】

【表1-3】 立候補検討・準備中に受けたハラスメント行為（女性の上位5項目）

順位	項目	女性	男性
1	性別に基づく侮辱的な態度や発言	27.2%	11.4% (8位)
2	SNS、メール等による中傷、嫌がらせ	23.1%	24.5% (1位)
3	年齢、婚姻状況、出産や育児などプライベートな事柄についての批判や中傷	21.6%	14.1% (6位)
4	性的、もしくは暴力的な言葉（ヤジを含む）による嫌がらせ	20.4%	16.9% (4位)
5	投票、支持の見返りに何らかの行為を要求	18.5%	23.4% (2位)

※複数回答可（全8項目の中から当てはまるもの全てを選択）。 ※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

【表1-4】 有効な取組（「有効」と回答した者の割合、全3項目）

順位	項目	女性	男性
1	選挙管理事務局、政党、議会事務局等での相談窓口の設置	49.6%	44.0% (3位)
2	有権者、支援者、議員への啓発や研修	47.8%	46.8% (2位)
3	監視機関の設置	46.8%	53.6% (1位)

※全3項目についてそれぞれ「有効」、「どちらともいえない」、「有効でない」から選択。

（注）表1-3の5項目及び「身体的暴力やハラスメント（殴る、触る、抱きつくなど）」、「付きまとい、ストーキング」、「その他」の全8項目の行為。

(4) 女性の政治家を増やすために有効な取組

- ◆ 女性の政治家を増やすために有効な取組について、女性の上位3項目は、「選挙活動のサポート」、「選挙ノウハウの研修」、「子供の頃からの政治教育・模擬議会」となった。上位15項目についてみると、「議会へのオンライン参加」、「議会・政党の要職への女性の登用」で男女の差が大きく、これらの取組が特に女性に望まれていると考えられる。【表1-5】

【表1-5】女性の政治家を増やすために有効な取組（「有効」と回答した者の割合、女性の上位15項目）

順位	取組分野	項目	女性	男性
1	政党における選挙活動の支援	選挙活動のサポート	58.7%	55.2% (2位)
2	政党における選挙活動の支援	選挙ノウハウの研修	58.3%	57.2% (1位)
3	社会全体の取組	子供の頃からの政治教育・模擬議会	57.9%	54.2% (3位)
4	政党における選挙活動の支援	選挙資金の支援	57.3%	51.6% (6位)
5	環境整備	ハラスメント対策	57.1%	54.0% (4位)
5	出産・育児・介護等との両立支援	議会へのオンライン参加	57.1%	> 48.8% (10位)
7	議会・政党における全般的な取組	議会・政党の要職への女性の登用	55.1%	> 46.8% (15位)
8	政党における人材発掘	候補者を選考する側の多様性の確保	53.6%	47.8% (13位)
8	議会・政党における全般的な取組	男女共同参画のための取組方針等の策定	53.6%	46.8% (15位)
8	制度等の見直し	立候補に伴う雇用主側の休暇保証及び落選時に復職できる制度	53.6%	50.4% (8位)
11	政党における人材発掘	政治家と政治家を目指す人との交流・ネットワーク構築	53.2%	50.8% (7位)
12	出産・育児・介護等との両立支援	議会内の託児スペース・授乳室の整備	53.0%	52.0% (5位)
13	出産・育児・介護等との両立支援	会議規則における出産・育児・介護等の場合の欠席規定の整備	52.2%	48.6% (11位)
14	議会・政党における全般的な取組	男女共同参画に関する研修	51.6%	49.2% (9位)
15	社会全体の取組	社会全体の固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の除去	51.0%	48.2% (12位)

※全32項目についてそれぞれ「有効」、「どちらともいえない」、「有効でない」から選択。

※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

2. 男女の地方議会議員に対するアンケート調査結果

(1) 立候補を決める段階から選挙期間中の課題

◆ 立候補を決める段階から選挙期間中の課題について、女性の上位3項目は、「知名度がない」、「仕事や家庭生活(家事、育児、介護等)のため、選挙運動とその準備にける時間がない」、「選挙運動とその準備の方法が分からない」となった。上位10項目についてみると、「性別による差別やセクシャルハラスメントを受けた」、「自分の力量に自信が持てない」、「知名度がない」、「地元で生活する上で、プライバシーが確保されない」等で男女の差が大きくなっており、女性にとって大きな障壁となっていることが分かる。【表2-1】

【表2-1】立候補を決める段階から選挙期間中の課題（「大いにあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計、女性の上位10項目）

順位	項目	女性	男性	順位	項目	女性	男性
1	知名度がない	59.8%	38.1% (4位)	6	立候補にかかる資金の不足	40.0%	39.7% (3位)
2	仕事や家庭生活(家事、育児、介護等)のため選挙運動とその準備にける時間がない	48.9%	36.5% (5位)	7	当選した場合、議員活動と家庭生活との両立が難しい	30.4%	18.5% (11位)
3	選挙運動とその準備の方法が分からない	46.4%	40.6% (2位)	8	立候補を阻むような言動を受けた	29.9%	20.1% (10位)
4	自分の力量に自信が持てない	42.1%	18.5% (11位)	9	当選した場合、仕事を辞めなければならない	26.2%	24.3% (7位)
5	地元で生活する上で、プライバシーが確保されない	40.4%	26.1% (6位)	10	性別による差別やセクシャルハラスメントを受けた	24.9%	0.9% (17位)

※全17項目についてそれぞれの程度あてはまるかを選択。 ※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

(2) 議員活動を行う上での課題

◆ 議員活動を行う上での課題について、女性の上位3項目は、「専門性や経験の不足」、「地元で生活する上で、プライバシーが確保されない」、「性別による差別やセクシャルハラスメントを受けることがある」となった。上位12項目についてみると、「性別による差別やセクシャルハラスメントを受けることがある」、「議員活動と家庭生活との両立が難しい」、「専門性や経験の不足」等で男女の差が大きくなっており、女性にとって大きな障壁となっていることが分かる。【表2-2】

【表2-2】議員活動を行う上での課題（「大いに課題である」及び「やや課題である」の合計、女性の上位12項目）

順位	項目	女性	男性	順位	項目	女性	男性
1	専門性や経験の不足	58.8%	41.8% (1位)	7	政治は男性が行うものだという周囲の考え	30.6%	14.5% (7位)
2	地元で生活する上で、プライバシーが確保されない	36.6%	23.9% (5位)	8	生計の維持	25.6%	38.3% (3位)
3	性別による差別やセクシャルハラスメントを受けることがある	34.8%	2.2% (13位)	9	議員活動と他の仕事の両立(兼業)が難しい	25.1%	27.9% (4位)
3	人脈・ネットワークを使って課題を解決する力量の不足	34.8%	22.2% (6位)	10	他の議員の理解やサポートが得られない	18.9%	11.8% (9位)
5	議員活動に係る資金の不足	34.1%	41.5% (2位)	11	地元の理解やサポートが得られない	15.2%	11.7% (10位)
6	議員活動と家庭生活(家事、育児、介護等)との両立が難しい	33.7%	13.7% (8位)	12	家族の理解やサポートが得られない	12.0%	10.3% (11位)

※全14項目についてそれぞれの程度あてはまるかを選択。 ※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

(3) 議員活動への出席のしやすさ

- ◆ 議員活動への出席のしやすさについて、全体では、「議員としての宿泊を伴う出張」を出席しにくいとした回答が最も多かった。【表2-3】

【表2-3】 議員活動への出席のしやすさ
(「やや出席しにくい」及び「出席しにくい」の合計、女性の上位3項目)

順位	項目	女性	男性
1	議員としての宿泊を伴う出張	22.7%	10.3% (1位)
2	所属政党の会合・会食	9.4%	8.4% (2位)
3	後援会や支援者との会合・会食	9.2%	4.2% (4位)

※全7項目についてそれぞれ出席のしやすさを選択。
※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

【より出席しやすくするための方策（自由記述）】

- 2～3泊の出張を1泊にする（女性30代・40代・60代）
- 日帰りやオンラインでの参加を認める（男性40代、女性40代・50代）
- ハラスメントが起きやすいため、視察時の夜の懇親会をなくす（女性30代・40代）
- お酒が入ると論理的な話し合いや意見交換もできないし、セクハラを受ける機会も多くなる。お酒の入る会合はなくすか、飲食を伴わない短時間の会合にする方が良い（女性30代・50代・60代・70歳以上）
- あらかじめ議題についての意見を提出しておき、会議時間を短縮（女性、年齢不明）
- ウェブ会議の活用（男性30代・70歳以上、女性50代・60代）
- 事前のアプリなどを用いた日程調整（女性50代・60代）
- 1年間の計画を知らせる（女性40代）

(4) ハラスメントの状況、ハラスメントをなくすために有効な取組

- ◆ 議員活動や選挙活動中に、有権者や支援者、議員等からハラスメントを受けたかという質問に対して、全体の42.3%、男性の32.5%、女性の57.6%がいずれかのハラスメント行為（注）を受けたと回答している。
- ◆ ハラスメントの内容では、全体及び男性では「SNS、メール等による中傷、嫌がらせ」が最も多く、女性では「性的、もしくは暴力的な言葉（ヤジを含む）による嫌がらせ」が最も多い。【表2-4】
- ◆ ハラスメントをなくすために有効な取組の上位3項目は、全体、男女別共に、議会による「議員向け研修」、「ハラスメント防止のための倫理規定の整備」、「相談窓口の設置」となった。【表2-5】

【表2-4】 議員活動や選挙活動中に受けたハラスメント行為（女性の上位5項目）

順位	項目	女性	男性
1	性的、もしくは暴力的な言葉（ヤジを含む）による嫌がらせ	26.8%	8.1% (3位)
2	性別に基づく侮辱的な態度や発言	23.9%	0.7% (8位)
3	SNS、メール等による中傷、嫌がらせ	22.9%	15.7% (1位)
4	身体的暴力やハラスメント（殴る、触る、抱きつくなど）	16.6%	1.6% (7位)
5	年齢、婚姻状況、出産や育児などプライベートな事柄についての批判や中傷	12.2%	4.3% (5位)

※複数回答可（全8項目の中から当てはまるものを全てを選択）。※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

【表2-5】 有効な取組（「有効」と回答した者の割合、女性の上位3項目）

順位	実施主体	項目	女性	男性
1	議会	議員向け研修	69.3%	61.3% (1位)
2	議会	ハラスメント防止のための倫理規定等の整備	66.6%	57.6% (2位)
3	議会	相談窓口の設置	63.1%	52.0% (3位)

※全6項目について、実施主体（議会又は政党・会派）ごとに、それぞれ「有効」、「どちらともいえない」、「有効でない」から選択。

※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

（注）表2-4の5項目及び「投票、支持の見返りに何らかの行為を要求」、「付きまとい、ストーキング」、「その他」の全8項目の行為。

(5) 女性議員を増やすために有効な取組

◆ 女性の政治家を増やすために有効な取組について、女性の上位3項目は、「政策立案に関する研修」、「選挙のノウハウの研修」、「選挙活動のサポート」となった。上位15項目についてみると、「議会・政党の要職への女性の登用」、「社会全体の固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みの除去」等で男女の差が大きくなっており、これらの取組が特に女性に望まれていると考えられる。
【表2-6】

【表2-6】女性議員を増やすために有効な取組（「有効」と回答した者の割合、女性の上位15項目）

順位	取組分野	項目	女性	男性
1	議会・政党における人材育成の取組	政策立案に関する研修	85.8%	70.2% (1位)
2	政党における選挙活動の支援	選挙のノウハウの研修	83.4%	> 59.1% (6位)
3	政党における選挙活動の支援	選挙活動のサポート	83.0%	> 57.0% (9位)
4	出産・育児・介護等との両立支援策	会議規則における出産・育児・介護等の場合の欠席規定の整備	80.6%	64.8% (3位)
5	環境整備	ハラスメント対策	80.5%	64.9% (2位)
6	社会全体の取組	社会全体の固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の除去	79.4%	> 48.7% (15位)
7	議会・政党における全般的な取組	議会・政党の要職への女性の登用	78.5%	> 44.2% (17位)
8	議会・政党における全般的な取組	男女共同参画に関する研修	77.8%	59.9% (5位)
9	社会全体の取組	子供の頃からの政治教育・模擬議会	76.8%	> 51.5% (13位)
9	議会・政党における人材育成の取組	議員同士の交流・ネットワーク構築	76.8%	64.4% (4位)
11	政党における人材発掘のための取組	候補者を選考する側の多様性の確保	76.0%	> 49.3% (14位)
12	制度等の見直し	立候補に伴う雇用主側の休暇保証及び落選時に復職できる制度	75.8%	57.4% (8位)
13	出産・育児・介護等との両立支援策	議員が利用できる託児スペース・授乳室の整備	73.9%	56.9% (10位)
14	議会・政党における全般的な取組	男女共同参画のための取組方針等の策定	71.4%	53.5% (12位)
15	政党における人材発掘のための取組	議員と政治家を目指す人との交流・ネットワーク構築	69.7%	55.8% (11位)

※全32項目についてそれぞれ「有効」、「どちらともいえない」、「有効でない」から選択。

※男女間で20.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

(6) 女性議員の存在による所属議会への影響

◆ 女性議員の存在による所属議会への影響について、男女共に「女性の視点が加わることで、議論が多様化している」が最も多かった。
【表2-7】

【表2-7】女性議員の存在による所属議会への影響（「非常にそう思う」及び「そう思う」の合計、女性の上位3項目）

順位	項目	女性	男性
1	女性の視点が加わることで、議論が多様化している	79.7%	60.5% (1位)
2	生活に直結する事柄について、より多様な人々の声の反映が行われるようになっている	70.3%	47.1% (3位)
3	雇用・出産・子育て、介護など女性に特に影響が大きい分野への支援が行われるようになっている	57.9%	35.3% (4位)

※全6項目についてそれぞれの程度当てはまるか選択。

【女性議員の存在による良い変化の例（自由記述）】

- 防災・減災の取組に女性の視点が反映された（防災倉庫へのミルクの備蓄、避難所のプライバシー確保等）（男性30代・40代・60代、女性40代・60代・70歳以上）
- 女性の雇用問題や子育て、出産、その他女性の視点に基づいた議会での提言により、周産期医療センター、子供の医療費無償化拡充、職員トイレのない小学校への職員トイレ設置、夜道の防犯カメラ設置、公的施設に授乳室やおむつ交換台、ベビーチェアの設置、不妊治療への補助金、DV対策、性犯罪に対する条例の厳罰化が実現（男性30代、女性50代、女性60代、女性70歳以上）
- 色々な価値観が議会に反映され、誰にとっても過ごしやすい社会の実現に近づく（男性50代）
- 育児・介護など実体験に基づいた女性の目線での具体的な質疑、意見が出る（男性40代、女性50代）
- マイノリティや子供の声も反映されるようになっている（女性50代）
- 女性の政治や議会に対する関心が高まった。女性の傍聴者が増えた（男性60代、女性50代・60代）
- 密室・談合の意思決定が減った。透明化が進んだ（男性50代、女性70歳以上）
- ハラスメントに対する意識の向上。ハラスメントに関する発言を注意するようになった（男性60代）

【女性議員がいないことによる不都合・困った点（自由記述）】

- 女性の視点に立った政策立案や議論が不足。必然的に男社会の理論に終始してしまい、男性目線での施策形成や予算配分になりがち（男性30代・50代・60代・70歳以上）
- 女性住民の声が反映されにくいと危惧。住民から女性議員不在を問題視されることがある（男性50代・60代・70歳以上）
- 子育て、福祉、医療、介護等において女性が主体、経験者である場合が多く、現実の諸課題を掴みにくいため、具体的な政策提言に反映できない（男性60代・70歳以上）
- 女性が直面している課題が明らかにならない、理解が薄い（男性70歳以上）
- 幅広い市政提言ができない（男性70歳以上）
- 女性の政治や議会への関心が薄い。個人的には、女性は男性とは物の見方、考え方も違い、女性の意見を聞くことがまちづくりに非常に参考となることがある（男性60代）
- 議会運営の改善が進まない。封建的議会が多い。男性古参議員の意見が通りやすい（男性40代・60代・70歳以上）
- 男性だけの遠慮のない下品な話を外でする議員がいる。モラルがなくなる（男性30代・70歳以上）
- 同僚議員に男女共同参画の必要性や意識を理解してもらえない。男女平等が定着しない（男性60代・70歳以上）